

こんぴらさん障壁画の謎

— 若沖・岸岱をめぐって —



金刀比羅宮 権禰宜 鈴木順之

1977年香川県生まれ。奈良大学文学部文化財学科卒業。

2005年金刀比羅宮奉職

はじめに

金刀比羅宮は、近世末期に至るまで神仏が習合した信仰の場で金毘羅大権現という神号社号を用いた。山号・象頭山、寺号・松尾寺、院号・金光院と称する古義真言宗の無本寺で、金光院住職は金毘羅大権現の別当職として神前奉仕につとめた。

山内に万治年間(1658～1661)建立と伝わる書院建築が二棟あり、現在は表書院・奥書院と呼ばれている。

表書院は別当金光院の客殿で諸儀式や貴顕の応接等に使用され、奥書院は別当金光院の館(私的な生活の場)として用いられた。

両書院に、江戸時代中期～後期にかけて京都画壇で活躍した伊藤若沖、円山応挙、岸岱、そして明治の日本画家、邨田丹陵の障壁画があることはよく知られるが、制作のきっかけや過程などについては詳らかでないことも多い。

書院が建立され約350年、若沖が奥書院障壁画を制作し250年以上経た今も、私たちが見ることができるのは先人たちの修理の恩恵に預かってのことだ。

このたび、伊藤若沖筆「百花図」修復を記念して、「お待たせ!こんぴらさんの若沖展」を開催するにあたり、奥書院障壁画の沿革について紹介を試みることにしたい。

●『奥書院修理工事報告書』p.44

万治年間建立説は奥書院明治42年の棟札「明治四十有二年四月奥書院修繕竣工書院係萬治年間建築経年之久敷加修理至頃年遂大破是年三月吉日起工……」による。表書院の明治42年の棟札にはいつの建築になるかは記されていない

●『表書院修理工事報告書』p.5

文書には、表書院は宥典(1645～1666)の代に建立したことが記されている。宥観(1613～1645)の時の建立にはじまり宥典(1645～1666)の代に完成したと推察される。承応3年(1654)に客殿を建て替えとも伝わる

●『奥書院修理工事報告書』pp.41-42

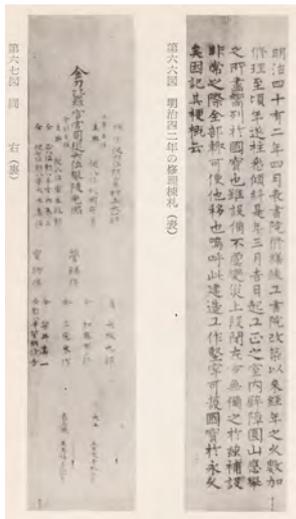
奥書院は、家密記や琴陵家所蔵文書(山田市右衛門盛貞執筆)中の記事から、宥山(1691～1736)の時に建立とも伝わり、『金光院日帳』の記事より享保2年(1717)に増改築され現在の規模になったと推定される



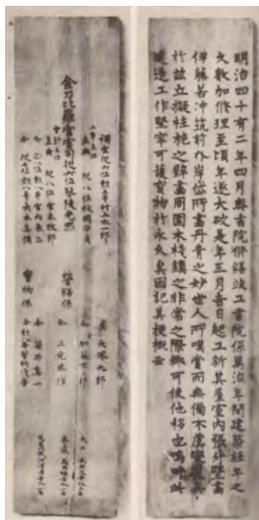
象頭山全景



《象頭山社頭並大祭行列図屏風》清信筆 元禄末年頃(1703~1704) 金光院本坊(現在の書院)

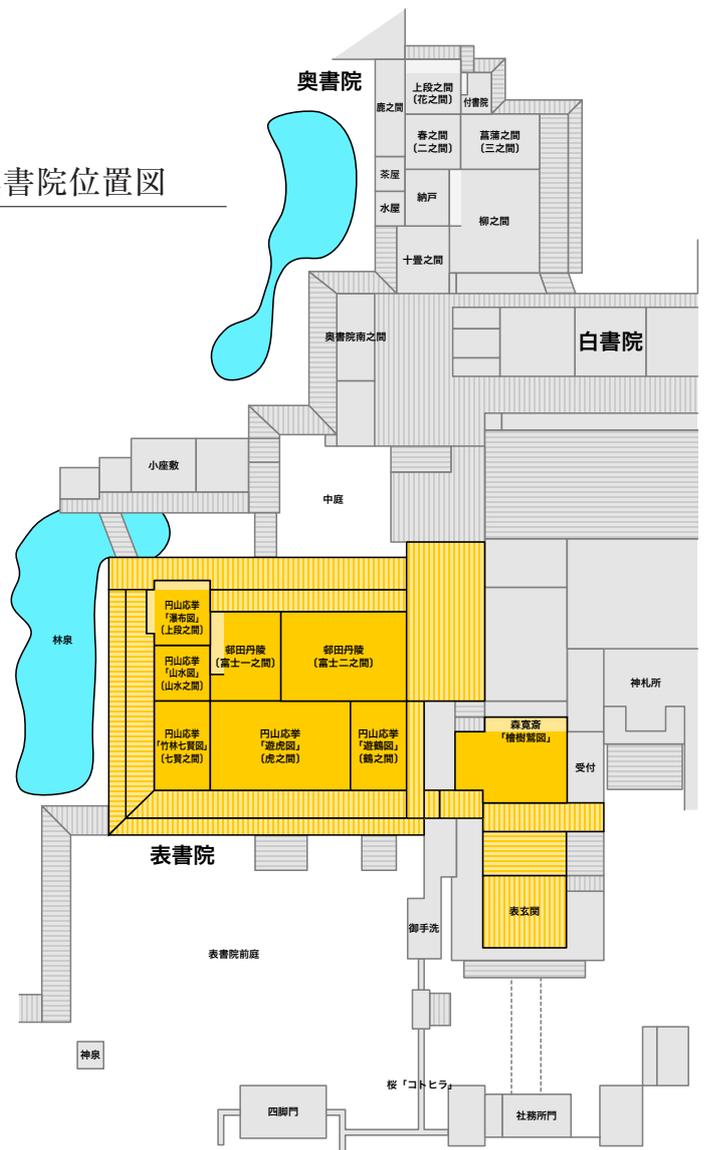


明治42年(1909)表書院修理棟札
『表書院修理工事報告書』第66図・67図



明治42年(1909)奥書院修理棟札
『奥書院修理工事報告書』第123図

表書院・奥書院位置図



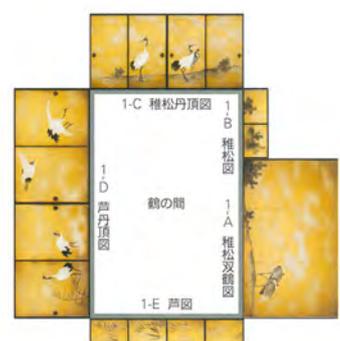
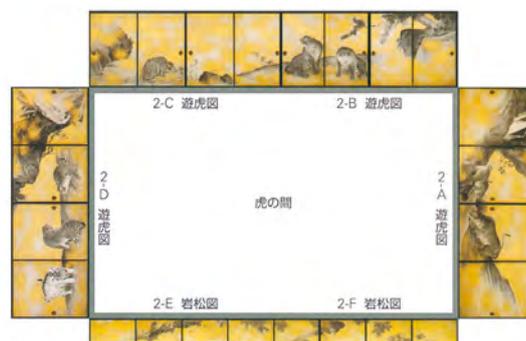
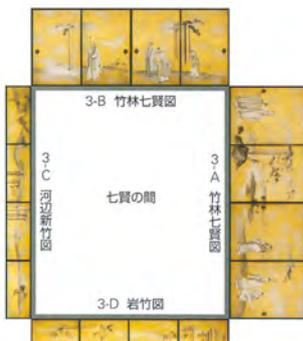
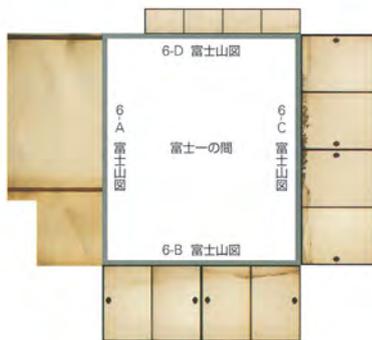
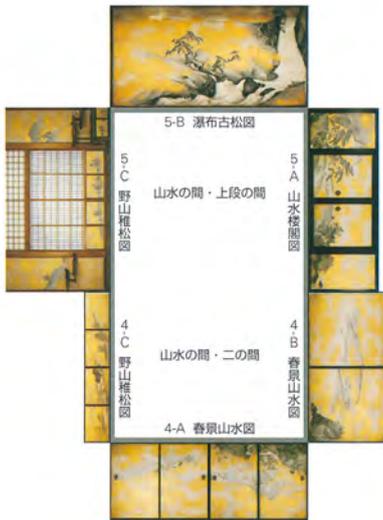
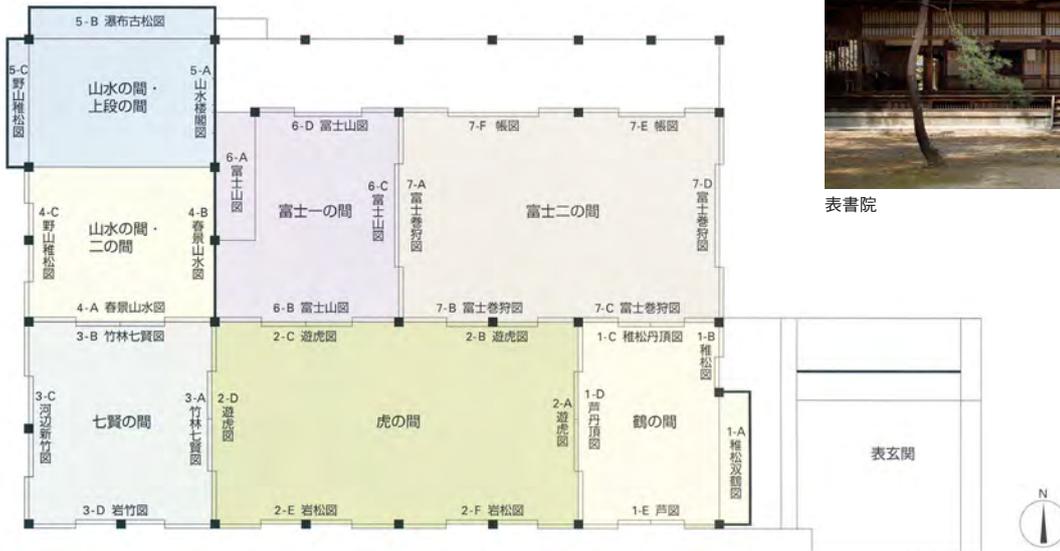


表書院絵画展開図

「金刀比羅宮書院の美・応挙・若冲・岸岱」2007 展覧会図録 pp.36-37



表書院

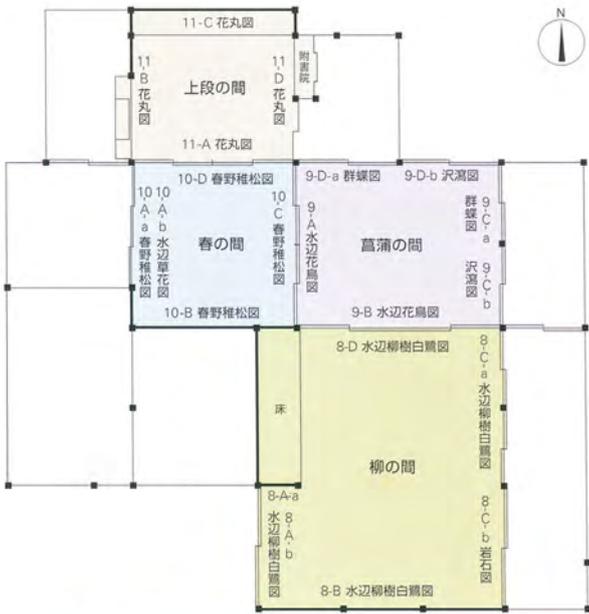




奥書院

奥書院絵画展開図

「金刀比羅宮書院の美・応挙・若冲・岸岱」2007 展覧会図録 p.88



歴代別当一覧表

歴代別当	在任期間	
1 宥範	～1352	～観応3年7月朔日遷化
この間不詳		
2 宥遍	～1570	～元亀元年10月11日遷化
この間不詳		
3 宥巖	1578～1585	天正6年入院～天正13年隠居、慶長5年(1600)遷化
4 宥盛	1585～1613	天正13年入院(慶長5年(1600)とも)～慶長18年正月6日遷化
5 宥観	1613～1645	慶長18年入院～正保2年11月3日遷化
6 宥典	1645～1666	正保2年12月入院～寛文6年隠居、延宝3年(1675)遷化
7 宥栄	1666～1691	寛文6年入院～元禄4年正月15日隠居、元禄6年(1693)遷化
8 宥山	1691～1736	元禄4年7月11日入院～元文元年9月8日遷化
9 宥弁	1737～1760	元文2年正月13日入院～宝暦10年12月5日遷化
10 宥存	1761～1787	宝暦11年2月18日入院～天明7年10月8日遷化
11 宥昌	1788～1799	天明8年正月26日入院～寛政11年10月朔日隠居、文化4年(1807)5月2日遷化
12 宥彦	1799～1811	寛政11年10月1日入院～文化8年4月7日遷化
13 宥慎	1811～1813	文化8年8月25日入院～文化10年4月7日遷化
14 宥学	1813	文化10年9月11日入院～同10月11日遷化
15 宥怡	1814～1824	文化11年4月18日入院～文政7年9月9日隠居 天保15年(1844)11月20日遷化
16 宥天	1824～1832	文政7年9月9日入院～天保3年8月16日隠居 9月15日遷化
17 宥日	1832～1836	天保3年8月16日入院～天保7年4月19日遷化
18 宥黙	1837～1857	天保8年4月15日入院～安政4年8月19日遷化
19 宥常	1857～1868	安政4年10月22日入院～慶応4年6月14日復訪

金光院歴代住職については、宥範以降宥盛まで文書により違いがみられ、宥雅を含むか否か等所説あるため、本稿では便宜上宥範を初代、宥遍を2代、宥巖を3代とする

参考文献

- 『重要文化財金刀比羅宮奥書院修理工事報告書』金刀比羅宮奥書院修理委員会、1960
- 『重要文化財金刀比羅宮表書院修理工事報告書』金刀比羅宮表書院修理委員会、1965